

江戸川病院通信

あおぞらだより

第 168 号 (発行/平成 29 年 5 月)

E棟 誕生会、お花見会
春の運動会

節句

江戸川病院院長 新村ヨシオ



藤棚 (病院内)

節句は子どもが健康に発育するように祈る式日である。女兒には 3 月 3 日の上巳(じょうし)、男児は 5 月 5 日の端午の節句がある。五節句のうちの 2 つであるが、他には 1 月 7 日の人日、7 月 7 日の七夕、9 月 9 日の重陽の日があるとされる。3 月の節句は桃の節句とも言われ、雛人形を飾る。5 月は男児は鯉幟、甲冑、刀剣を飾り、菖蒲の節句と言われる。いずれにしても、健康は元より女子は女の子らしく優雅に、男子は勇ましく育つように祈りをこめてお祝いするのである。女兒は形を変えればお雛様であるし、男児は金太郎という人形になるのである。女性には優しさと上品で慎み深さを求めたし、男性には質実剛健を期待して家族で祈った。子ども心にも女性性そして男性性を意識する大きな転機になるのではないか。子どもとしても期待されることで一族の一員としての自覚も芽生えてくることになる。成長とともに節句の祝い事はなくなるが、雛祭や菖蒲湯などは記憶に残るし、日本の文化の伝統となって受け継がれていく。最近になってはこの伝統も影が薄くなっている。

節句の起源は中国のようで、日本に渡来し、時の政権の宮中や武家などで子どもの成長を祝ったことが、庶民に普及してきたようだ。節句とは異

なるが、子どもを祝うものに七五三がある。男子は3才と5才に、女子は3才と7才になった時に11月15日に氏神などに参拝する行事がある。七五三も成長を祝い、将来を祈願する祝い事である。子どもを大切にする日本文化が伝統になっている、とは言っても5月4日に総務省から発表された子どもの統計によると、15才以下の人口は1571万人、人口の12.4%で36年連続減少とされている。核家族化、保育施設の不足、親世代の収入の減少や共働きの増加などで少子化が進行していることも事実である。子どもは国の宝でもあるし、節句だけに意識するのではなく、大人がいつも子どもには注意を払っているのが日常とならなくてはならない。

節句が消滅するのではと危惧している。社会構造が変化し、価値観の多様化で日本人の心に反映されていない。端午の節句に男児の将来を祈るのに、よもぎや菖蒲を軒に挿して邪気を払うという発想こそが、時代に合っていないのか。国も5月5日は子どもの日と制定したので、焦点がぼけてしまったのもある。夢や理想を語れない現実主義が蔓延していて、今さらお祝いしてもと打算が働くのか。昔は男子が産まれると鯉幟を立てて祝い、更に産まれれば追加していく風習があった。鯉幟の数を見ればその家には何人の男児がいるか分かる位であった。そのうちに競うようになり沢山の幟がなびくようになってきた。我が家でも二男を得られたため2匹の鯉幟が泳いでいた。子どもが物心がついた頃に自身の名前がついた大きな鯉幟を誇らしげに見上げて、大切にされていることを実感していたと思う。文化は時代とともに変わっていくとは言うが、古来の伝統は守りたい。しかし、一般的には西洋文化を迎合し、クリスマスやバレンタインデイのような西洋の文化が日本の文化を駆逐してしまったこともある。厳かな節句はなくなるのか心配している。

節句について気になったのは、雛人形や五月人形業界の衰退を耳にしたからである。少子化もさることながら、核家族やうさぎ小屋で収納ができないので大型な人形は売れないとのことだった。それ以前に文化の西洋化によると考えている。商業にしても、西洋の行事を盛り上げて商品化していった。子どもの人形だって青い眼をした洋服を着ているし、子どもの専門店に行っても和服を着た人形は少ない。雛人形や五月人形は高価なこともあるが、時期に店を訪れても売場は狭く商品も乏しいものである。日本古来のお祝い事は費用が嵩むので、敬遠されているのか。マスコミも規模の大きい鯉幟の映像を写す位で、国民が祝っている情景は報道されない。大概は行楽に関するものである。近所を車で移動しても鯉幟の減少に気付くし、最近は庭に掲げられているお宅を見たことがない。マンションには美化の問題もあるのか、小さな鯉幟も殆んど見ない。残念であるが、国際化とともに日本の文化は消滅していく運命にあるのか。



E棟誕生会

今回の誕生会はボランティアの原田夫妻をお招きしました。ご主人がオペラを歌い、奥様がピアノを演奏してくださいました。患者様からは「素晴らしいテノールの歌声でした。」「女学生の頃を思い出しました。昔はカンツォーネなどを歌っていましたが、今は歌う機会もなかなかないので生で聴けてとてもうれしかったです。」という感想をいただきました。あっという間の時間でしたが、楽しんでいただけた様子でした。

4月10日、病院のグラウンドにあるオオシマザクラが満開となり見ごろを迎えました。青空の下、桜を愛でながら体操や歌を楽しんだあと、サプライズでデイケアメンバーさんがダンスを披露してくださいました。



E棟花見会

院内行事のご案内

アニマルセラピー (精神科病棟・E棟)	5/13(土)	10時～	院庭
E棟誕生会	5/27(土)	14時～	E棟6階
デイケアバザー & Café つぼみ	6/2(金)、3(土)	10時～17時(バザー) 10時～14時(Café)	デイケア棟 D棟(桃源)

☆春の運動会☆

4月23日春の運動会が行われました。あいにくの曇り空でしたが、グラウンドで開催することができた多くの患者様が参加されました。玉入れやデカパン、チョコ食い競争、デイケアのダンスなどを楽しみました。



【感想】

—1 病棟—

- ・玉入れ、デカパン競争、チョコ食い競争いずれも楽しかった。
- ・見ていても楽しかった（車椅子の方）。
- ・楽しかったが、もっと長い時間やりたかった。種目をもっと増やしてほしい。リレーなどやった方が良いと思う。

—2 病棟—

- ・途中で雨が降ってきてしまったが、玉入れとチョコ食い競争が楽しかった。
- ・玉入れが楽しかった。白組が勝ったと思ったのに惜しくも負けてしまった。
- ・ダンスは楽しそうに踊っていて、私はベンチの上で踊っちゃいました。
- ・来年も春の運動会を開催してほしい。パン食い競争をやってもらいたい。



—E棟—

- ・デイケアの方のダンスが良かった。
- チョコは全部食べてしまいました。
- ・ダンスを見ていて良かった。
- ・みんなで外に出られてよかった。
- ・途中から雨が降ってきてしまい非常に残念だった。



—3 病棟—

- ・選手宣誓が出来てとても楽しかった。
- ・玉入れで 100 個以上入れることができて楽しかった。デイケアの踊りも素晴らしかった。最後のチョコ食い競争も雨の中楽しめました。
- ・突然の雨で早く終わってしまったのは残念だったが、玉入れ、チョコ食い競争に参加してたのしかった。デイケアの人のダンスもステキでした。
- ・職員の進行がとても良かったです。私の心も少しよくなりました。
- ・少し疲れました。

—デイケアつぼみ—

ダンス企画 in 春の運動会！

「Another Day of Sun(映画『ラ・ラ・ランド』より)～Shut Up and Dance」

2ヶ月前からの選曲、振り付け、構想、メンバー皆で楽しみながら取り組んだ練習、そして迎えた4/22の本番。

2ヶ月を経た自分の心の変化、また自主練をするメンバーや新たなアイデアを発信してくれたメンバーなど、様々な思いがひとつとなって、最高の表現に辿り着くことができました。

当日参加して下さった病棟の皆さん、スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。このような場を提供して下さいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。昨年とはまた違った、宝物のような貴重な体験となりました。